

資料

國際經濟會議概觀

椎名 幾三郎

去る五月四日に開始され約三週間の後に終了したる國際經濟會議は、近來稀に見る重大なる意義を有する國際的大集會であつたことは、内外の新聞又は雜誌に眼をさらす者の等しく是認する所であらう。以下、此會議の由來、構成及經過等を略述し、且つ感想を披瀝して見やう。

一

抑々現時の世界經濟狀態、殊にヨーロッパのそれに一べつを與ふるときは、殆どすべての國の産

業は萎靡して振はず、生産者は原料輸入上の困難を嘆じ、其製品の價格の低廉なるを憂ひつゝある。他方消費者は生活費の暴騰に苦しんでゐる。此間にあつて、商人は金融上の不便を悲しみ、且つ通關及び輸送の費用の高さに對して不平滿々である。然るに一方には、天然の資源豊富なるに未だ之を開發するに充分なる資本又は勞力を缺く國家の存するに、他方には、有り餘る勞力又は過剰の資本の處置に窮して、所謂失業者問題又は安全なる放資方法問題に悩みつゝあるものがあるのである。此等の問題を解決することに依つて、世界人類の福祉の増進せらるべきこと、特に言を俟たない。又此等の問題を等閑に附して、世界の平和を確保せんとするも、そは無謀の擧に近いものと言はねばならない。惟ふに戦争は必ずしも、激烈なる經濟的競争より結果するものならずとするも、經濟的平和は政治的平和を準備するものである。

これ、一昨年九月、國際聯盟總會の席上、フランスの代表者にして時の大藏大臣たりしルーシユア氏が、今次の國際經濟會議を提唱したる所以にして、又諸國の代表者が之に熱誠なる賛意を表したる所以である。而して其第一回の準備委員會は、すでに昨年四月二十六日から五月一日まで開催され、其第二回は同年十一月十五日から向ふ五日間、開かれたのである。而して第一回の委員會に於ては、スエス國の大統領アドール氏議長となり議事日程の大要を定め、第二回に於ては、ベルギ

1の前首相ターニス氏議長となり、其下に三つの委員會が設けられ、國際經濟會議の期日、議事日程及び其構成等について討究を爲し、つひに成案を得、之に従つて今次の會議が開催されたのである。

## 二

前記準備委員會の決議に従つて、國際聯盟は其加盟各國は勿論、アメリカ合衆國、ソヴェエツト・ロシア、トルコ、メキシコ、エクアドル及びエジプト等の政府に對しても、國際經濟會議に參加すべき五人以下の代表者の派遣方を依頼した。茲に注意すべきはアメリカ及びロシアを招待したることである。此の二國は世界經濟上特に重要な地位を占めつゝあるが故に之等を疎外しては會議の價值は著しく減ぜられるのである。かゝる國際聯盟の勧誘に應じて、會議に参加を申込むた國家の數は實に四十七に達した。其各國から集まれる代表、顧問、専門委員新聞記者等合せて一千名に及び、ジネープの會議は世界の耳目を集めたのである。

なほ又國際聯盟が各國代表選定について加へたる制限は我等の注目に値する。即ち聯盟は此會議を外交官會議と爲すことを欲せざりしと同時に、單なる専門家會議となすを望まざりしことを忘れ

てはならぬ。若し各國の代表が其國の政府の代辯人たる特命全權大使なるときは、其討議は極めて慎重となり、言論の自由が確保され難い。又若し會議が國際聯盟の指名したる委員より成るときは、夫等の委員は各國の政府を動かすに足らぬであらう。然るに、今次の會議に參集したる各國の代表は、何れも政府の代辯者でもなく又聯盟の委員でもなく經濟問題に關する練達の士であつて、各國の財界の輿論を代表する識者中の識者である。されば彼等の背後には各國の政府があり彼等の意見には相當なる權威があるわけである。今一々各國の代表の氏名を列記するは、其繁に堪えない。唯我國の代表の氏名を掲ぐる止めやう。

首席代表 財政經濟時報社長 志立鐵次郎氏

政府代表 ホーランド駐劄公使 佐藤尙武氏

商業代表 商科大學教授法學博士 上田貞次郎氏

工業代表 貴族院議員工學博士 斯波忠三郎氏

農業代表 農科大學教授農學博士 佐藤寛次氏

極東の日本がすでにかゝる有力なる代表を送りたるを知るものは、恐らく、歐洲の混亂せる財界の渦中にある諸國が、其國々の一流の財政通、工業家、銀行家及び學者を派遣したることを、容易

に想像するであらう。若し強いて代表者の氏名を知らんと欲する者は、五月五日の中外商業新報を見られよ。

右の如く多数にして、有力なる代表を集めたる國際經濟會議は去る五月四日、定刻より二十分遅れて午前十一時二十分、第二回準備委員會の議長ターニス氏を、議長として開催された。

### 三

國際經濟會議の議題の大綱は次の如くである。

#### 第一部議題

- (イ) 各國の見地よりしたる世界經濟主要問題
- (ロ) 現時に於ける商工不均衡の諸原因
- (ハ) 世界平和に影響すべき經濟上の諸傾向

#### 第二部議題

##### (甲) 商業

##### (イ) 通商の自由

(ロ) 關稅及び通商條約

(ハ) 自國の通商及び間接的保護手段

(ニ) 購買力減衰の國際通商に及す影響

(乙) 工業

(イ) 重要産業の生産能力、消費及び勞働狀態

(ロ) 現在工業悲況の實狀並に商工、金融上の原因

(ハ) 右の諸對策

(丙) 農業

(イ) 農産物の生産、消費、在荷、價格、取引に關し戰前との比較狀態

(ロ) 現在悲況の諸原因

(ハ) 右の國際的對策

右の議題に従つて、各國の代表は其意見を開陳したのであるが、それ等の意見を略述する前に、議長ターニス氏が此會議に對して、如何なる精神を以て臨んでゐたか、及び従つて各國の代表は如何なる態度を採るべきであつたかを一言したい。ターニス氏は昨年十一月の準備委員會に於て教訓

に富んだ演説をしたが、その一節に於て「經濟的平和の確立には、漸を追つて進まねばならぬ。而して、此目的たるや眞に我等の最善の努力に値するものである。この我等の努力の果實を收獲する者は、勿論現代人たる我等ではない。さり乍ら、悠久なる人類の生命の前途に思を馳せるならば、數ヶ年乃至十數年は實に一瞬に過ぎない。凡て高遠なる理想の爲めに、働く者にとつての最大の報酬は、人類の共同作業に價值ある貢獻を爲したりと、感ずること即ち是でなければならぬ。」と説いてゐる。此一節を讀む者は會議の理想が遠大であり、代表中には人格の高潔なる者の少からざりしことを信ずるであらう。

第一部議題の討議中諸國の代表が、意見を述べた問題若干について略述したい。

其第一は我國と密接なる關係ある人口問題である、之については、國際經濟會議に於てアメリカ、英國殖民地及びフランスと、イタリア及び我國其他との間に、到底意見の一致を見ること能はざるを豫見したる第二回準備委員會は議事日程から之を削除した。而して我國の識者も其削除を甚だしく遺憾としてゐたのである。然し乍らイタリア又は我國の代表が之に言及する機會を作るべきことを我等は期待してゐた。果せる哉、開會第一日の總會の席上イタリア代表ベニン・ロンガレ伯は、此問題を持ち出して次の如く言つた。「現在イタリアは經濟的に支へうる以上の人口を有して

る爲め非常な苦境にある。ついでには人類全體の福利増進の爲め、今會議は人口問題解決に對して努力すべきである。殊に此問題については、全世界に共通する法規を作るべきである」と。而してわが志立代表も亦日本の人口の過剰及び資源の缺乏を説いて、國際間の交通及び通過の自由を要望したのである。されど人口問題は議題外のものなれば、之を解決すべき方法については何等の討議も行はれなかつた。

第二はヨーロッパの經濟的復興と不可分なる關係を有する戰爭賠償金問題及び聯合國間の債務問題である。而して前者については、ドイツが極力其輕減を要求し、聯合國は之に應ぜざるべきを以て、議題外におかれた。後者についてはベルギー、イタリア等の債務國殊にフランスが債務の抹殺又は減少を要求すべく、英米が之に反對し、意見の一致を見る能はざるべきを以て、此問題も亦議題から削除されたのである。此點については、ロシア代表オシンスキー氏のみが言及してゐるやうである。即ち氏は戰時債務一切の廢止を提案したのである。然し之に關しては、何等の決議も成立しなかつたやうである。

第三に我等は資本主義制可否論に目を轉じやう。ロシア代表は會議の當初、資本主義制に對し激烈なる非難を加へ共產主義のみ最後の勝利を得べきことを力説し、之に對してフランス及イタリア



等の代表が興味ある反駁を試みた。然し乍ら事實上ロシア代表は、自國の經濟的復興には西ヨーロッパの援助を要することを熟知せるが故に、結局他の諸國と協定する態度に出た。ロシア代表の最終の總會に提出すると推測さるゝ決議案は左の如くである。

「今回の國際經濟會議は絶対に政治問題に觸れることを差控へ、たゞ商業上の革新の緊急事なることを認む。本會に参加する諸國の經濟組織の如何を問はずして、あらゆる國の國民の代表者が参加し得たといふ事實は、商業的國際協同に對する幸福なる前提であると考へる。たゞロシアが其意味で今回の會議の決議中、ある部分には喜んで協同参加の意を表し、其他の部分にはソヴェット共和國の性質上、賛成し得ぬことを諒とする。」

右の草案が決議として成立したか否か、未だ明瞭でないが、苟くもロシア代表がかゝるものを用意したることは、歐洲の經濟的復興の途上に一つの光を投ずるものである。

右の三つの問題の外に金融問題及び通貨問題がある。前者については如何なる討議が行はれたか今の所私には不明である。後者については殆ど議論が無かつたことと思ふ。何故なれば現在に於ては、歐洲諸國の通貨はほゞ安定の状態にあるからである。

次に第二部の議題について議事の經過を見やう。此の議題即ち特殊問題は今次の會議に於て解決せねばならぬ問題である。就中、貿易障礙の撤廢と、國際的カルテル組織は實に會議の眼目である。私は項を改めて前掲の議事日程の順序を追ひつゝ各國代表の意見を略述したい。

#### 四

五月四日に開かれたる國際經濟會議の總會議は同七日を以て終了し、九日からは商、工、農の三大委員會とそれに附隨する多數の小委員會が開かれたのである。

商業委員會に於て最も重要な問題は關稅の障壁撤廢である。現時世界の各國が悉く保護貿易政策に傾き、之が爲めに通商の自由が制限され、各國の事業が不振なることは周知の事實である。殊に歐洲に於ては、戦後に創設されたる諸國が高き關稅の障壁をめぐらし、従つて歐洲の貿易額は著しく減退してゐる。されば此種の政策を捨つるに非ざれば、世界の經濟的復興の不可能なるは、財界の識者の夙に認めたる所である。彼の歐洲實業家の自由貿易宣言の如きは、雄辯にこの間の消息を傳ふるものである。また、パリに其本部を有する國際商業會議所が、一年有半以前より、貿易障礙委員會なるものを設けたるが如きも、然りである。

従つて、今次の會議に於ては自由貿易論が極めて有力であつた。先づスエーデン代表たる彼の有名なるカッセル博士の所論を見やう。氏の意見によれば生産物の國際的移動を圓滑ならしめるには、自由貿易とまでは行かなくとも、せめて今日の高い關稅をやめねばならぬ。氏は更に進で言ふ「も

し此會議にして關稅を遞減することが出來たら、この會議こそ經濟上の軍縮會議であらう」と。イギリス代表ノルマン・ヒル氏、フランス代表ルシユール氏及び日本代表志立氏等も亦通商の自由及び關稅の減廢を主張したのである。然し乍ら、ロシア代表及び歐洲中部の小國の代表は保護政策に傾いてゐた。今ロシアの代表の意見を略記すれば、自由貿易主義は強國にのみ適合するものであつて、關稅の撤廢はある富裕なる産業國をして、ますます發展せしむる結果を來たす、と云ふのである。

かくの如く、各國の利害は關稅問題について一致するとは困難であつたが、結局五月十七日の商業問題分科委員會は、左の報告を本會議に提出し其承認を得たのである。

即ち「各國の關稅障壁は通商貿易の發達を阻止すること多大なるが故に、是非とも、之を撤廢し、もしくは之を縮少せればならぬ」と報告したのである。

また、輸出税及び最惠國約款の擴張適用についても、重要な決議を成立せしめた。即ち輸出税については「消費國の負擔を徒らに増加し且つ消費國を非常に不利なる立場に陥れる目的を有する輸出税は、今後原料の輸出に對し、一切之を課せざること」を定めた。又最惠國約款については「各國に於て稅率に關しては、無條件的最惠國約款を含み且つ長期の通商條約を締結すること」を

決議した。

また關稅率と關連してしばしば問題となるは關稅用語である。之が不統一は甚しく通商の妨害となることは、貿易業者の常に經驗する所である。之を統一せんが爲め、國際商業會議所會頭ランシマン氏は其趣旨の提議をなしたのである。之に對しては、ドイツ代表シーメンス氏其他が其必要の緊急なることを力説した。従つて近き將來に於て關稅品目及び用語等は、國際的統一を見るであらう。

さらに、ある種の産業に對して政府が直接又は間接に補助することは、他國の同種の産業の生産物に對して課税すると同じく、外國貿易を常態に引き戻す上に障害があるから、この國庫補助金下附の制度を廢止すべしとの決議案も可決された。

右の諸決議の成立については、我商業代表上田博士が終始一貫して盡力し、博士年來の主張の實現に努められたことを茲に特筆しておきたい。

工業委員會に於ける問題の花形は、言ふまでも無く、國際カルテルのそれである。現時の歐洲の經濟界を見るものは、原料及び製品の生産の無政府状態にあるを知るであらう。之が調整を圖るには、相互に信ずること乏しき諸國の政府間の協約では足りない。之には、生産要素に對する國際的

統制と國際的協力とを、事業家自らはねばならぬ。即ち國際的カルテルはダムピングを防止し、經濟上の無用なる競争を避けしめ、産業の部門別に生産要素を國際的に組織し、之に依つて一方には合理的生産を奨励し、他方に於ては、生産物の流通を圓滑ならしむる使命を有する。従つて、國際的カルテルは世界の經濟的生產上、最も重要な楷梯を成すものである。現時、國際カルテルとして、最も有名なるものは、歐洲の製鐵業のそれである。此の外に、絹、ゼラチン、電氣、染料、アルミニウム、金屬製管、鐵線、マツチ及び炭酸加里に關する工業について、國際的カルテルが成立し又は成立せんとしつゝある。

さて、國際的カルテルが生産者の見地よりすれば、非常に有利なることは言ふまでもない。然し乍ら、消費者より之を見れば、世界の物價を騰貴せしむる原因であると考へられる。されば、五月十三日の工業委員會は、殆ど全員一致で各種工業の國際カルテル及び國際聯合組織に賛意を表したに拘らず、ロシア代表ソコルニコフ氏唯一人之に反對し、其理由として左の如く聲明した。

「國際カルテル並に聯合の存在及び之が發展は、現下の經濟組織の下に於ては、其間に介在する諸種の病根を掃滅し得ぬのみならず、却つて物價を騰貴せしむる。此際、必要とする所は大小の工業及び農業の間に勢力の分配を行ふこと及び國際的信用制度を設立することである」と。

越えて十九日、國際カルテルの決議案は、激しい論戰の末、委員會を通過した。而して、其後の

總會に提出されたはずだが、私は其の案の成行を知る材料を有してゐない。然し乍ら、一般に總會は委員會の提案に變更を加へないから、其案は成立したものと見て差支ない。其決議文は左の如くである。

「國際的産業カルテルは、たゞ生産上の範圍に限り、しかもヨーロッパ經濟の復興を中心として考慮すべきものである。かゝる意味の企業合同は冗費を節減し、能率をあげるといふ原則より作らるゝものであつて、物價吊上げモノポリーなどの不正商業の目的となつてはならぬ。また、特殊國の利益を基礎とし、或は特殊國を排斥してゐる生産業者のみの利益の爲めに、消費者や労働者が犠牲となつてはならぬ。企業合同が一國內に限る場合は、その政府が之を善導してくれることは希望するが、國家が干渉することは、望ましからぬことである。また、合同が國際的な場合は之を監督するやうな設備は不可能なものである云々」。

此決議は條約でも勸告でも抗議でもないから、何等價値なき骨抜き文だと、惡評する者がある。然し乍ら英、佛、獨の大工業家たちは、之に依つて彼等自身の意思の疏通を見、一方、小國、消費者及び労働者の意見をやゝ尊重しつゝ、彼等の將來のモノポリー政策に反對せぬやう言質を得たと見るのが適當であらう。

また、此委員會は産業合理化の目的を有する左の二つの決議を成立せしめた。即ち、

一、産業を合理化する爲め、各國政府、生産者及び職業的産業機關に對し、原料の浪費を防止する方法を講じ、無用なる仲介者を除去する權限を與へ、且つ國際的に重要な製品の雛形は、すべて國際的に規格を統一すべきである。

二、産業上の統計に關し、國際聯盟機關をして、主要なる工業、原料、在庫品及び將來の生産に關し、世界各國の統計を統一し脈絡を保たしむるやうにし、各種工業の生産不足を豫測し、又は生産過剰を防止するに便ならしむべきである。

なほ、同委員會は産業の合理化より生ずることあるべき失業については、次の如き草案を通過せしめた。

一、生産及び分配の合理的組織は、生産を増加し、労働條件を改善し、且つ物價を低減する重要なる要素である。

二、産業の合理化の初期に於ては、時に失業者を増加し、労働條件を困難ならしむることあるを以て、産業の合理化に當つては、殊に労働者の利益を保障する必要を認むる。

最後に、農業委員會の議事の進行状態をうかがつて見やう。

抑々農業問題として最も重要なるは、生産者團體と消費者團體との國際的協力を行はしめ得べき方法を發見することである。五月十一日の委員會に於ては、農産物生産に従事する各國農業家組合と消費組合とが、國際的に協力して需要供給を圓滑ならしむべきことの必要は各國委員の力説する所となつた。就中、日本委員農林省書記官荷見安氏は、日本の各生産消費組合は喜んで諸外國の消費組合と協力し、もし事情さへ許すならば、これ等日本の各組合はアメリカ、カナダ其他の諸國の消費組合と直接交渉を開いても宜いと、聲明したることである。また、此委員會は各國の農業状態、農業の科學的及び技術的研究、並に農業信用等に關する重要報告書類の交換を、繼續せしむる

方法を講じた。

## 五

以上、私は乏しい材料を頼りつゝ、今次の國際經濟會議の經過を概觀して見た。そして私は此會議はつひに失敗に終れりと判斷せねばならぬであらうか。答へて曰く否、否。

凡そ、ある仕事の成否の判斷は豫期したる目的の實現されたるか否かに依存するものである。我々の豫期したるものが小なるときはその仕事を成功したと認める率は高まるのである。然らば今次の國際經濟會議に對して、如何なることが期待されたのであつたかを知らねばならぬ。

(一) 第一に期待されたことは、豫め用意された資料覺書と會議席上に於ける重要なる演説とによつて世界の經濟状態を知り得ることである。凡そ、此等の資料や意見は極めて大なる權威を有するものであつて、これが世界の輿論を動かし、各種の産業及び各國政府の當事者を教育指導する力は、精密に豫想し得ないが、大體に於て非常に大なるものがある。今次の會議には、如何なる國家の政府と雖も、獨力を以てしては、集め得ない程の多數の資料が準備されたとのことである。また、各國の代表も各々自國の經濟状態、殊にその窮状について説明する所があつた。此等の資料及



び意見は、各國の代表を啓發したであらう。而して、すでに公刊され又は公刊さるべき此等の資料は學者及び事業家にとつて極めて有益なる研究の資料となるであらう。

(二) 各國各方面の有力者が會議で互に親しく接觸することは、それ自身、甚だ有益なことである。從來、國際聯盟が條約案を通過させるに當つて、最も有效なる役割を演じたる要素は、此の個人的關係の結合であつた。而して、今次の會議は空前の大規模のものであつて、此の點について大なる効果をあげたことは疑ひない。

(三) 今次の會議の二大眼目の一つなる貿易障壁撤廢は、すでに略述したるが如く、各國の委員が之に賛成して有力なる成案を得た。之は我々が豫期した通りである。

(四) 二大眼目の他の一つなる國際的カルテルについては、各國代表間に意見の一致を見ること困難なりと豫想されてゐた。事實、之については激烈なる論争があつた。然し乍ら國際的カルテルを原則として是認すべき決議は成立した。此點については、今回の會議は豫期以上の成績をあげたものと考へざるを得ない。

以上は私が今次の會議を以て成功したりと認むる主なる理由である。我國及びアメリカには、ヨーロッパ偏重の會議であつたと難んずるものがある。されど、それは皮相なる觀察者の批難に過ぎない。

い。何故なれば、カッセル博士の言つたやうに、全世界今日の經濟的悲況を救ふには、先づヨーロッパを經濟的に回復せしめねばならぬからである。また、今次の會議が幾多の經濟上の重要問題を解決せずに残して、比較的、實行し易き少數の問題に對して決議したに過ぎないと評するものもあらう。まことに、左様である。さり乍ら、今度の會議が遠大なる理想に向つて、健實なる一步をふみ出したものであり、且つ今後之に續いて多數の經濟會議の開催せらるべきことを思ふものにとつては、上記の如き批評は何等の脅威ではない。さらに、或者は今次の決議は國際協約又は條約として署名されたものでなく、従つて、法律上、價值なきものであると言ふ。實に、然りである。然りと雖も、眞の經濟的復興を實現する上に於て、條約必ずしも決議即ち各國政府に對する勸告文に優るといふ理由はない。恐らくや、各國政府は此等の世界的輿論に耳を傾けるであらう。さらに今次の會議の眞の効果如何を問ふものがあらう。私は將來のみがそれを解決すると答へたい。何となれば、世界の經濟的復興には百千の空文もその一つの實行に若かないと考ふが故である。

さて翻つて、わが國の代表の主張は如何なる運命に逢着したかを見やう。大體に於て、其主張は貫徹したやうである。即ち志立代表が、その演說中に要求したる外國人に對する公平なる待遇、及び上田博士が極力主張したる最惠國約款の無條件適用等は承認されたのである。但し沿岸貿易の解

放については、國際聯盟の交通委員會で、今後、研究を続けるといふことになつたゞけである。

本稿を終るに當つて、世界の平和と人類の幸福のために努力する國際聯盟に對して私は深い敬意を表し且つ我國の代表殊に恩師上田博士の勞を深謝したい。

(一九二七、五、二三)